

ニホンザルの被害管理と個体数管理

～被害対策を効率化するための個体数管理考え方～

三重県農業研究所
山端直人

今回紹介させていただく内容

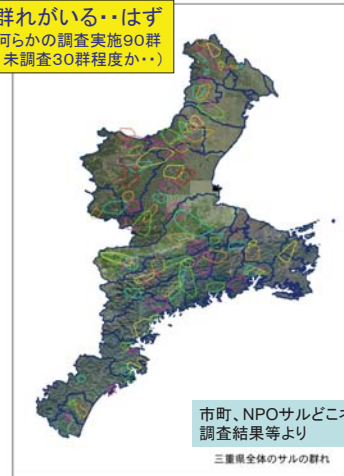
①三重県のサルの状況

②三重県のサル対策の概要

③被害管理を効率化するための個体数管理
～その手法と実践の状況～

■三重県のサルの状況

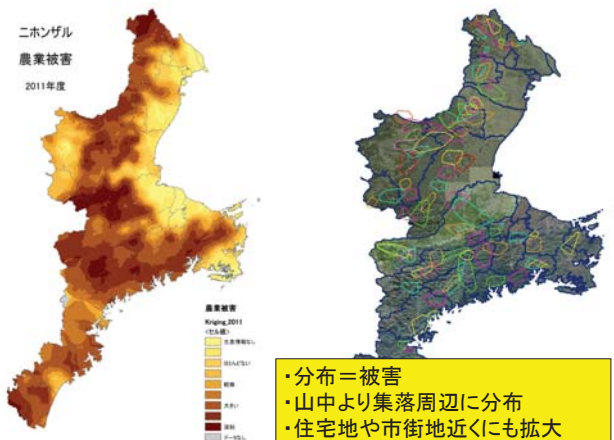
120前後の群れがいる・・はず
(発信器などで何らかの調査実施90群
未調査30群程度か..)



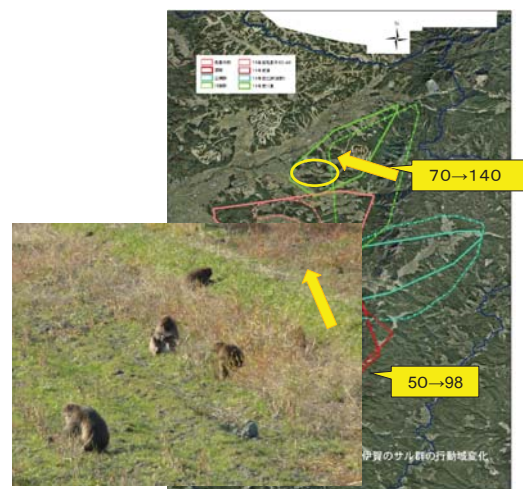
市町、NPOサルドコネット、県各部署の
調査結果等より

三重県全体のサルの群れ

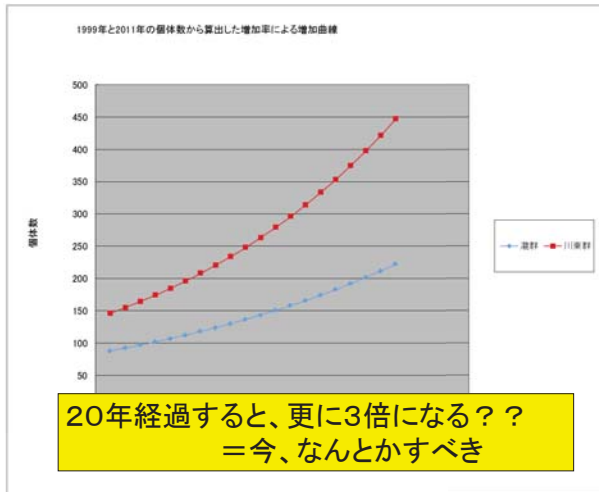
ニホンザル
農業被害
2011年度



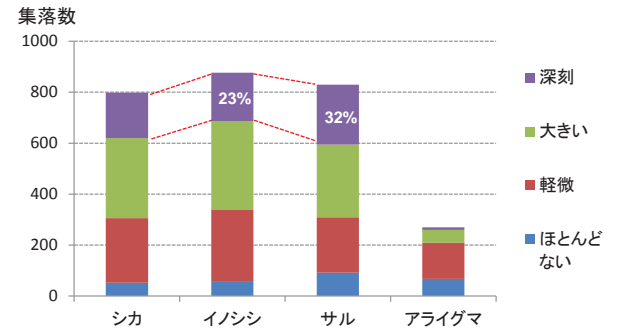
・分布＝被害
・山中より集落周辺に分布
・住宅地や市街地近くにも拡大



伊賀のサル群の行動域変化



被害が発生している集落数



サルの「負担感」は相対的に大きい＝諦め感の表れか？

※H23三重県獣害アンケート

■被害対策の考え方

1 (被害対策に役立つ)サルの生態

サル

生態

- オスとメスからなる群れを形成
- ハナレザル(オス)やオスだけの群がある
- 30～50頭の群れを作るが近年は100頭を超える群れもある
- 活動範囲は数平方～30平方キロメートルと言われている

繁殖力

- 出産期は春～初秋
- メスは5～6歳で出産 通常各年1頭の出産
- 栄養状態がよいと若年出産、毎年出産する

生息域・被害

- 海岸線の都市部を除いてほぼ全域に生息
- 被害は中山間の果樹産地や耕作放棄地の多い地域で目立つ

食性

- 植物を主に、きのこ類、昆虫なども食べる雑食性
- ほとんどの農作物を食べるが、食い荒らしが多い

特性

- 記憶力や学習能力は高く、同じ刺激を繰り返すと馴れる
- 運動能力(ジャンプ、跳躍など)は高い
- 数ミリの突起や凹みがあれば壁を登ることができる



被害が発生する場所(集落)とは・・・

⇒ 加害獣に好まれる場所

- 1 採食可能な場所
 - 2 安全な場所
- 双方の条件を満たすと獣害は発生する

獣害対策の中の「被害管理」とは、この2つの条件を満たさない場所にしていくこと

⇒ それと同時に、「生息地管理」と「個体数管理」を実施していく

■被害対策の考え方

2 サルの被害の人的要因の数々

①人が被害と思わない「エサ」がある



②「正しく」囲えていない



③隠れ場がある



④正しく追い払えていない



サル対策の5箇条

- 予 1 集落内の収穫残さや不要果樹など「エサ場」をなくす
- 防 2 耕作放棄地や藪などの隠れ場所をなくす
- 治 3 囲える畑はネットや柵のできる限り囲う
- 療 4 人里は怖いと覚えさせるため、獣を見たら必ず追い払う



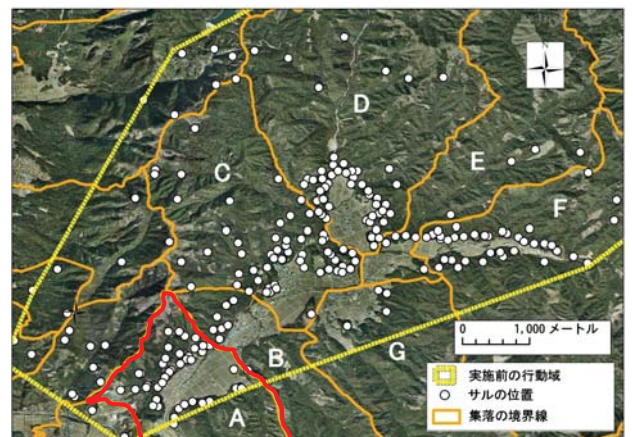
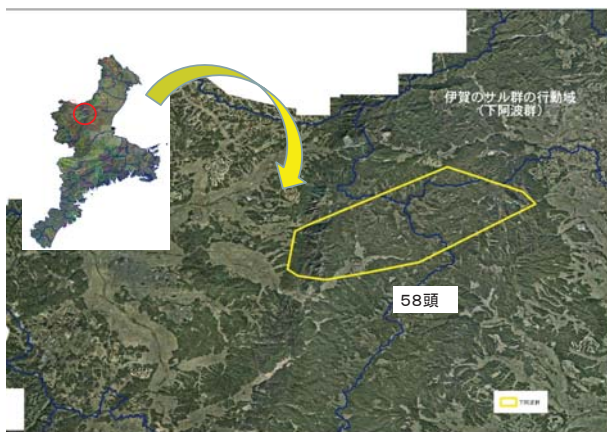
集落のエサ場価値を下げる

- 手 5 3、4が可能なレベルに群れの頭数をコントロールする

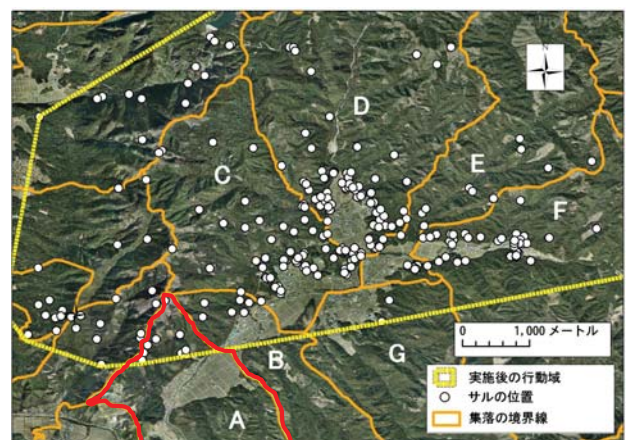
三重県でのサルの特定計画(に反映させたい)の考え方

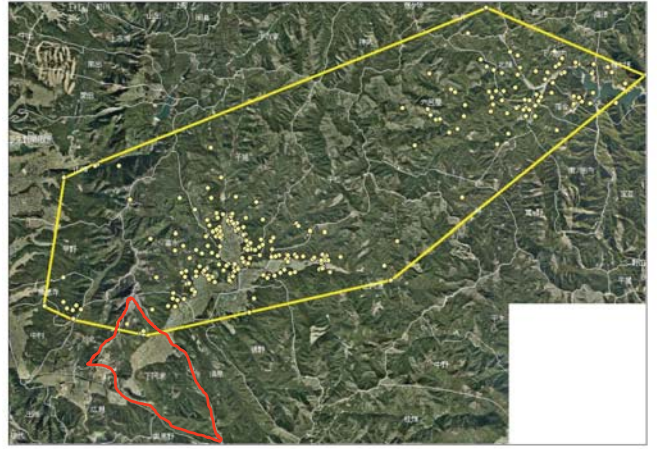
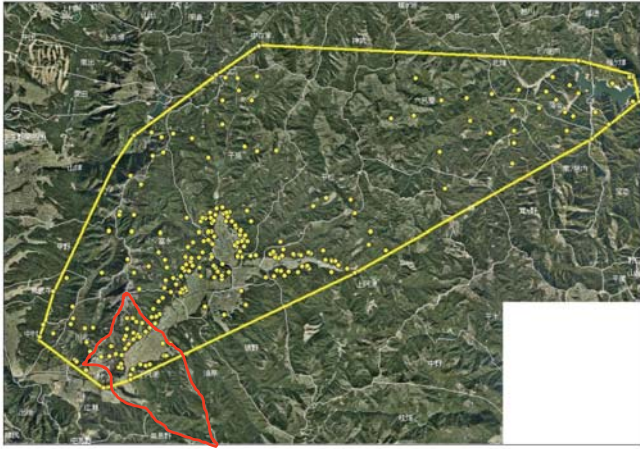
- 地域ぐるみの被害防除
- 群れを単位とした頭数などのコントロール
 - ・ 多頭群のサイズダウン
 - ・ 加害レベル低下(悪質個体の除去)
 - ・ 行き場のない群れの除去

■ 組織的な追い払いの実例

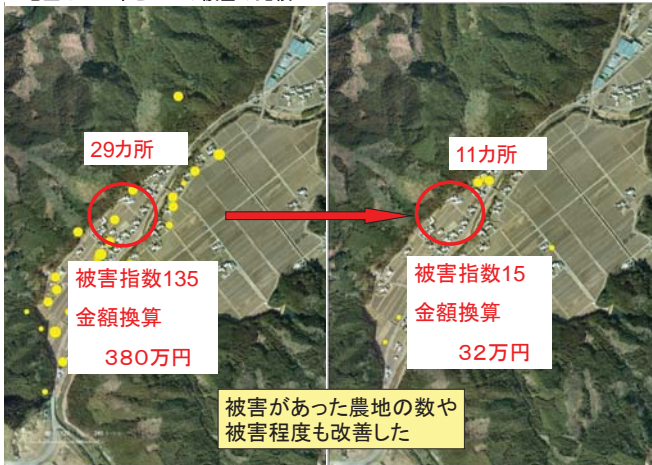


効果が出た追い払いの行動様式

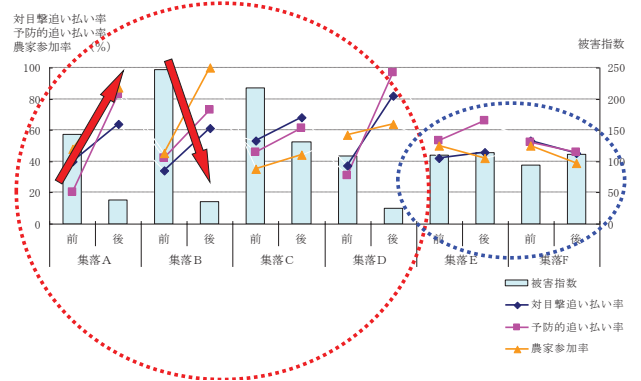




S地区のH19年とH23の被害の比較



複数の集落で追い払いにより同様の効果
(2009山端)



■ 効果的な多獣種防護柵の導入

サルにも効果のある電気柵
(おじろ用心棒(兵庫県香美町考案))



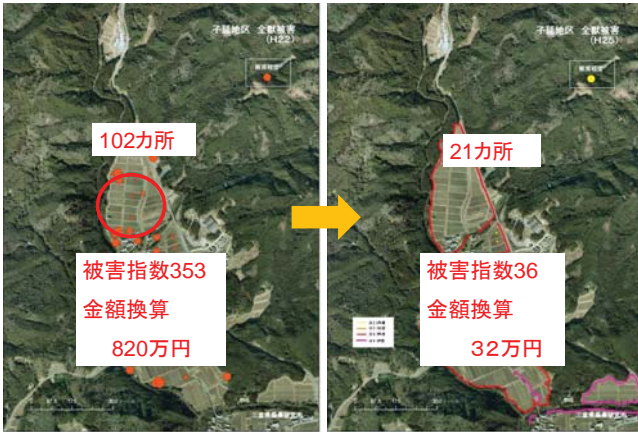


伊賀市子延地区

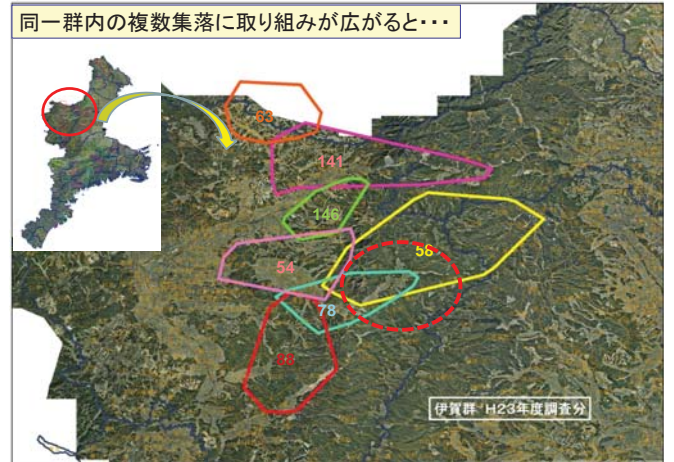


伊賀市子延地区

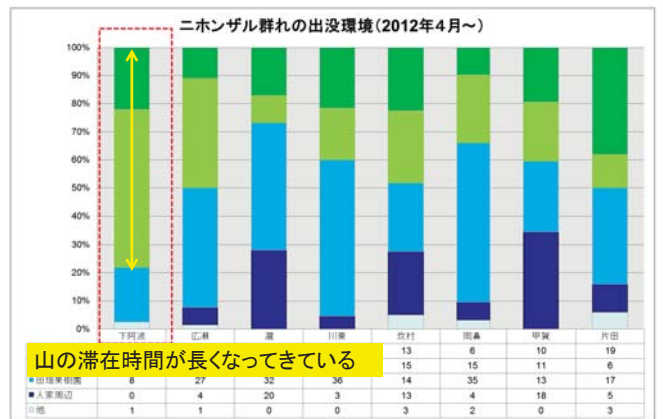
N地区のH22年とH24の全獣害の比較（集落柵と追い払いの効果）



同一群内の複数集落に取り組みが広がると...



同一群内の複数集落に被害管理が広がると...



山の滞在時間が長くなってきている

被害管理の拡大で、集落への依存を軽減できる



特徴的な住民の意見

H19～H20

- サルは頭がいいからどうしようもない
- 国や県がサルを全部捕獲しろ
- サルが子供を産めないようにできないか？



H24～H25

- 悪いことしなければ、かわいい生き物
- サルが居てもいい
- 最近サルを見ないから少し残念

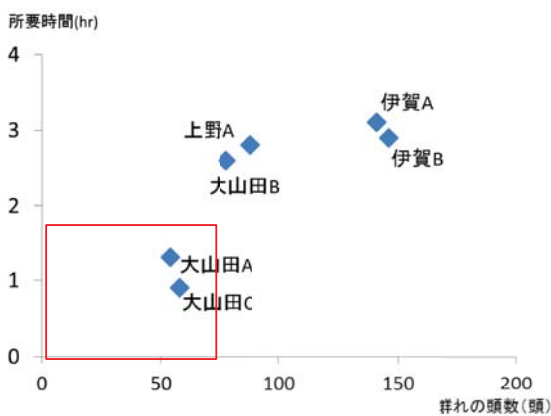
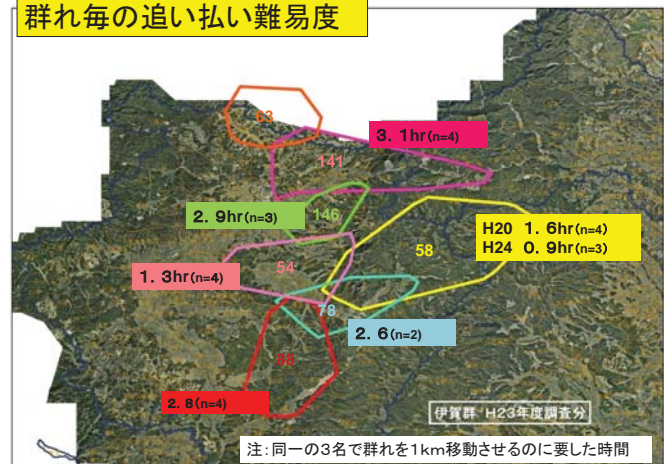
被害が減れば感情も改善する

被害管理のオプションが増え、実施例や実績も出てきている。

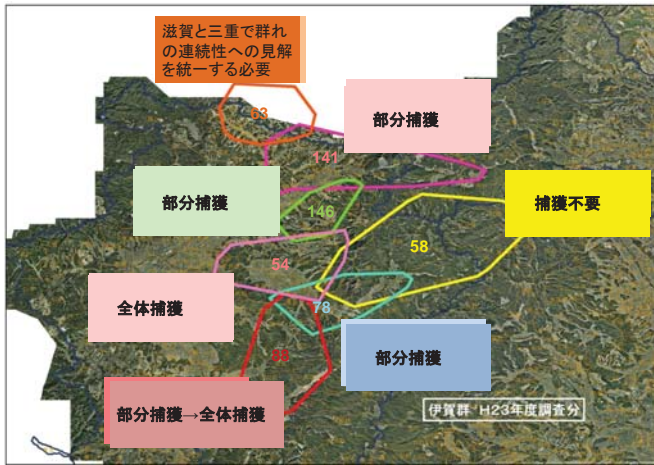


だからこそ、次の課題
(群れの管理)が明らかに

群れ毎の追い払い難易度



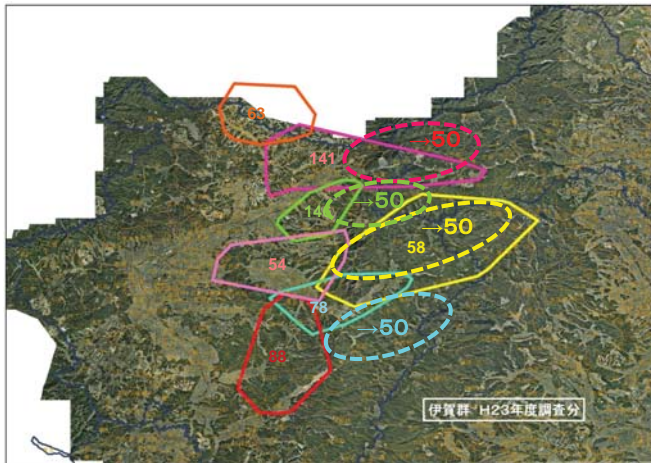
被害対策と合わせ
群れのサイズと位置で計画を策定



三重県伊賀市の群れ管理の考え方

群れ名	頭数	群れを返せる山地の有無	加害レベル	管理の考え方
大山田A	58	有	3	被害管理のみ
大山田B	78	有	4	個体数調整と被害管理
大山田C	54	無	4	被害管理しつつ群れの除去
伊賀A	141	有	4	個体数調整と被害管理
伊賀B	146	有	4	個体数調整と被害管理
伊賀C	63	無	4	個体数調整と被害管理
上野A	88	有	4	個体数調整と被害管理

※加害レベルは三重県の特定計画より
(5段階、レベル5は人家侵入や人身被害有り)



自治体でも実施可能な
捕獲の手法は？

複数の箱罠による捕獲



通称「地獄檻」による捕獲



移動可能な大型箱罾+遠隔監視・操作機器
(まる三重ホカクン)



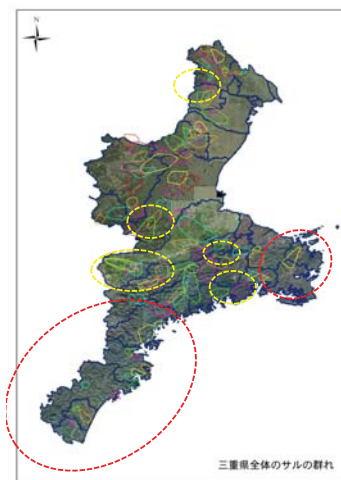
これらの考え方で特定計画策定

～その課題～

三重県でのサルの特定計画の(反映させたかった)考え方

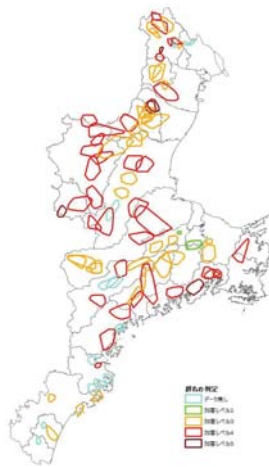
●群れを単位とした頭数などのコントロール

- 地域個体群の安定的な保全を念頭に
- 加害レベルを判定(5段階)し、レベル4以上を個体数調整の対象とする
- 多頭群を50頭程度までコントロールする
- 山へ帰せる可能性のない群れの除去



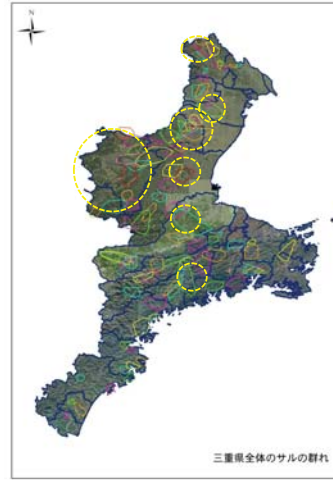
- 課題
- ・未調査の群れが20-30程度存在する。
- ・「安定的な保全」の判断基準は？

三重県全体のサルの群れ



■課題

- ・「加害レベル」の客観的判断方法
- ・被害がなされていない群れは加害レベルが高くなる
(被害対策が進まなければ、問題は解決しない)



頭数が調査されている群れ

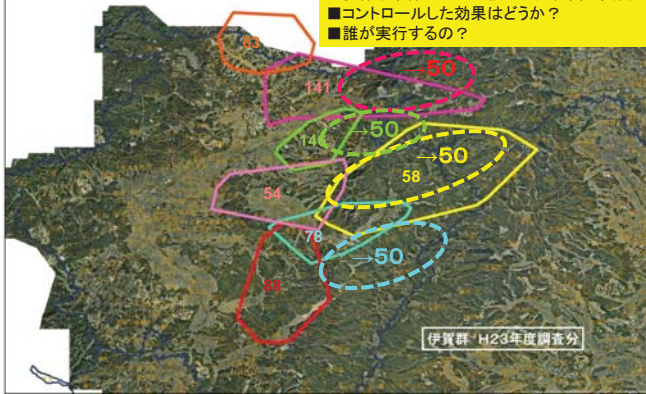
管内	旧市町村	群れ名	頭数
四日市	高原町	高原A(山口)	189
四日市	高原町	高原E(小原一色)	69
四日市	北勢町	北勢B(いなべ基産)	85
四日市	四日市市	四日市A	139
四日市	四日市市	四日市B	147
四日市	磐前市	磐前B(北畑)	122
津	津市	津C(片田)	97
松阪	松阪市	松阪B(飯内)	77
松阪	宮川村	宮川D	23
伊勢	伊勢市	伊勢A	99
伊勢	紀勢町	紀勢A	88
伊勢	紀勢町	紀勢B	71
松阪	大谷町	大谷C	22
伊賀	上野市	上野A(湯)	88
伊賀	上野市	伊賀A(岡鼻)	141
伊賀	上野市	伊賀B(川原)	146
伊賀	阿山町	阿山A(伊賀)	63
伊賀	大山田村	大山田A(下阿波)	58
伊賀	大山田村	大山田B(広瀬)	78
伊賀	大山田村	大山田C(鳳凰寺)	54
伊賀	青山町	青山A(露生)	20
伊賀	名張市	名張A	43
伊賀	名張市	名張B	38
		計	1,957

■課題

- ・効率的な頭数調査の必要性

社会実験的な実証や情報の整理が必要

- 多様な条件下での比較→汎用性高い実例
- コントロールした効果はどうか？
- 誰が実行するの？



伊賀群 H23年度調査分